

災害発生時の対応学ぶ

白糠中・高で合同避難訓練

【白糠】白糠高校（田村 信明校長）と町立白糠中学校（滝川敦善校長）は16日、合同避難訓練を行い、地震や津波など災害発生時の対応や避難経路を確認した。同高校の災害や防災などについて学ぶ「1日防災教室」の一環で、昨年度からは義務教育学校「白糠学園」の開校に向け、高校に一時移転している同中学校と合同で実施している。

この日は授業中に白糠地域で地震と津波が発生したとの想定で、同高校から67人、同中学校から75人が参加した。生徒は教員の誘導



災害時を想定し、学校から走って避難する生徒ら

で橋北2、3区町内会の住民6人と共に学校から町の避難場所となっている旧中学校舎裏の標高33・5メートルの「九合の山」へ走って避難した。

同地区の津波到達時間が約20分と予想される中、避難開始から人数確認までを

約15分で達成した。避難場所を設置されている防災資機材備蓄コンテナの見学も行われ、町役場地域防災課の若生孝志主幹が簡易トイレや発電機などコンテナ内の備蓄品を紹介した。

同高校生徒会長の石井寿

鶴さん（17）は「いざという時のため、こういった訓練は非常に重要だと思う。改めて自分の命は自分で守らないといけないと感じた」と話していた。

（森崎博史）